



総会によせて

会長 S11 連川 悠一

2010年を迎え、第5号の東九通信発行に当たり、一言ご挨拶をさせていただきます。まずは、会員の皆様にはご壮健にて新年を迎えられた事と、お慶び申し上げます。昨年の政権交代に大いに期待していた経済発展は一向に回復せず、政治家の金権問題だけが、クローズアップされている昨今です。期待されたバンクーバー五輪も韓国の圧倒的な強さにしぼんでしまった日本でした。とまれ、今年は私にとりましても、会長任期の2年を終えます。何とか重責を終えることができましたのも、偏に会員の皆様のご協力の賜です。誠に有難うございました。1年目は、戸惑いながら5月の総会以降開催された幹事会(6月、7月、12月)・親睦ゴルフコンペ(3月、8月、10月)・千代白鵬十両優勝祝賀会(6月、8月、12月)・神奈川支部総会(10月)・県人会(11月)・KG会(11月)等、盛り沢山の行事があり、現役に戻ったような充実した楽しさの中の忙しい日々を過ごしました。年が改まってから、内空閑君の急逝に始まり、前述の行事の他、本校卒業式の出席、関西支部総会出席と、熊本の大同窓会が加わりました。このような2年間でしたが、今年は役員改選をする年度となりました。年々、総会への参加者が少なくなってきましたが、皆さん協力のもと、同窓会を盛り上げてゆきたいものです。私だけかも知れませんが、年金生活に入ってから、現役の頃は会社の先輩・後輩(所詮はライバル)関係業者(求めるのは自分のメリットだけ)等、五月蠅いほど周りにいた大勢の人達が段々離れて行き残ったのは数人、近所は奥方の独壇場(企業戦士の家は寝床)亭主の入り込む隙間はなし、1人では生きられぬ

この寂しさを何処で補うか?自分の好きなサークル仲間との集い、又は、同郷・同窓の方々との集い、ということになりました。私のような考えの方々も大勢おられると思います。近年は人と人との繋がりが希薄と言われていています。何の利害も考えず、懐かしい熊本弁で大いに語り、大いに呑む、こういった集いを年に幾度か出来れば、良いだろうな—と思っています。100年の歴史を持つ、「九州学院」この学舎で青春の一時期(3年 or 6年 或いはもう一寸長い人も?)を過ごした人々の集いです。大いに盛り上がりましょう。



東京九学会 万歳!

九州学院の現状について

九州学院事務長 S20 池永 清

過日、竹熊誠先輩から原稿の依頼を受けました。内容は、「九州学院の現状と将来の展望を、財政的な面も含め報告をお願いしたい」ということであつたと思います。内容的には事務長として荷が重く、長岡理事長、内村院長に筆を譲るべきところですが、折角のお申し出ですので、筆を執らせていただきました。

ご承知のように、九州学院は2011年に創立100周年を迎えます。昨年の東京九学会会員総会では、土山研三募金委員長が募金のお願いを申し上げたところですが、記念事業の一環として、1号館(旧本館)前にある2号館(特別教室棟)の改修、新体育館の建設、記念歴史資料室の設置等、施設面での教育環境の整備及び育英奨学基金の充実を計画しています。

